

メロンソーダとコーヒー

原蔵之心

ぼくはメロンソーダが大好きだ。ソファアのひじかけに置いて、ゲームをする。ストローからのどを通して入ってくるメロンソーダは格別だ。ぼくの幸せな時間だ。

「あつー！」

ゲームに熱中しすぎた。ひじがメロンソーダに当たり、全てがじゆうたんにこぼれてしまった。

「何しとんや！そんなところにジュースを置くからやろうが！」

父ちゃんの怒鳴り声が、リビングにひびき渡った。

「さつさとふけ！」

ぼくは、必死にこぼれたメロンソーダをふきながら、ぐっと口びるをかみしめた。本当はこう言い返したかった。

「父ちゃんも、いつもひじかけにコーヒーを置いてテレビを見てるだろ！何で自分は良くて、ぼくはいけないんだ！」

父ちゃんは、おこると怖い。自分のことをたなに上げて、ぼくのことをおこってくる。だから、ぼくは腹が立つんだ。弟とけんかをした時もそうだ。弟が悪くても、ぼくにおこってくる。弟びいきなんだ。だから、ぼくはとても腹が立つんだ。

父ちゃんは、自分勝手だ。父ちゃんのことを大嫌いだ。そう思う時がある。

正月に、父ちゃんと母ちゃんとぼくと弟で、じいちゃんの家に行つて、おせち料理を食べる。毎年恒例の行事だ。今年も、じいちゃんはいつも通り元気で、ぼくたちにお年玉をくれた。父ちゃんは、じいちゃんの長男で、よくぼくに長男の気持ちはよく分かる、だからこそこちゃんとした人になってほしいんだ、と言っている。

2月にじいちゃんが、急に亡くなった。その時、父ちゃんは、ぼくの肩をぎゅつとにぎりしめ、静かに泣いていた。おこると怖い父ちゃん、自分勝手に大嫌いな父ちゃんが、静かに泣いていた。

そういえば、父ちゃんはぼくが行きたいと言った所に、必ず連れて行ってくれる。週末は、ぼくのソフトボールチームのコーチをしてかれている。平日の夜は、トスバッティングを一緒にしてくれる。試合で打てなかつた時は、一緒に悩んでくれる。ぼくが試合でかつやくしたら、一緒に喜んでくれる。時々、ぼくの小さい頃の動画を見ながら、にやにやしている。父ちゃんの携帯電話フォトは、ぼくの写真や動画であふれている。

なんだ、大嫌いと思うことより、いい所のほうが多めだな。ちゃんと言ったことないけど、今度、ありがとうって言ってみようかな。

評価のポイント

好き・嫌いの正反對なエピソードを通じて、父への思いを自覚していく過程が素晴らしい。人間味にあふれ、共感を呼ぶ。